

上 野焼協同組合に加盟する9窯元が新作を発表する「秋の窯開き」が10月28日から3日間、開催されました。JAL協賛の抽選会、「多肉植物×上野焼」の販売会とワークショップなども同時開催。町内外から約5,500人の陶芸ファンが訪れ、逸品探しや特別企画を通して上野焼の魅力を体感していました。



News ▶ 「上野焼 秋の窯開き2023」を開催

世界へと広く発信し続けなければいけない」と力強く拳を握りしめます。上野焼窯元と、町や県、関係機関により、今日まで受け継がれてきた伝統と誇りを、創意工夫で次の世代へとつなぐ取り組みが続けられる上野焼。今後も陶の里の挑戦から目が離せません。



福 岡の有名グルメ情報誌「ソワニエ+」と、県内飲食店の協力の元、上野焼パンフレット「上野焼おいしいつわ」を制作しました。12月から順次、県内飲食店に配布し、上野焼をPRする予定。町内では、福智町役場本庁舎や上野焼陶芸館などに展示しますので、お手に取ってご覧ください。

Information ▶ 「上野焼×料理」でPRパンフレット制作



× 小倉城

上野ゆかりの地とタッグを組んで魅力発信

細川、小笠原の歴代小倉藩主の御用窯として親しまれた上野焼にゆかりのある小倉城（北九州市）とコラボレーションし、「上野焼作陶体験と小倉城庭園での大茶会」、「上野焼と小倉城／歴史をつなぐバスツアー」、「上野焼展示会流1602～2023」を実現しました。初開催の大茶会とバスツアーには、計73人が参加。小倉城とのつながりを生かして、上野焼を大勢のかたにPRしました。

温故知新の挑戦を続けて 伝統と誇りを次の世代へ

新たな上野焼のファンと販路、後継者を創出するため、上野焼協同組合は、今年度から町や県、関係機関と連携した4つの新たな取り組みを開始。フランスに出品した上野焼の売れ行きは上々、小倉城と連携した大茶会とバスツアーには73人が参加、多肉植物×上野焼のセットは121個が完売、「上野焼後継者インターンシップ」には5人の若者が参加するなど、早くも良い手応えが現れ始めています。

新たな取り組みへ確かな手応えを感じながらも、「伝統という大義名分や、一時的な手応えに甘んじてはダメ」と真剣なまなざしを向ける高鶴理事長。「今後も、受け継いだものに創造と時代のニーズを加えた上野焼を生み出し、その魅力を日本全国、



× フランス

海を越えた異国で広げる販路開拓への道

日本から西に約9,850km離れたフランスで行われた「第11回伝統と先端と～日本の地方の底力～」に上野焼75点を出品。地方でのディジョン展は10月18日から22日まで、メインとなるパリ展は11月14日から25日まで開かれ、通算17日間、上野焼の展示と販売が行われました。展示が目的の焼き物を除き、マグカップなどの売れ行きは上々。海外へと販路を広げる新たな可能性を見いだしました。

上野焼421年目の現状 陶の里に立ちこめる暗雲

豊前小倉細川藩の初代藩主・細川忠興公が招致した李朝陶工尊階により1602年に開窯され、今年で421年目を迎えた上野焼。昭和58年に国の伝統的工芸品に指定され、最盛期を迎えた上野焼の里には20件を超える窯元が軒を連ね、多数の陶芸ファンでにぎわいを見せていました。しかし、時代の潮流が大量生産・大量消費、使い捨てへとシフトし、売上や来場者が減少。「現在では上野焼窯元が減少し、その中でも正式な後継者がいる窯元は数件のみ」。このままでは伝統の灯が消える可能性がある。上野焼協同組合の高鶴享一理事長は、現状に危機感を募らせます。

× 後継者



志ある若者が陶の里で伝統工芸インターン

上野焼でも深刻化する後継者不足。伝統の継ぎ手確保に向け、今年度から上野焼協同組合と県、ニッポン手仕事図鑑、町が連携し、「上野焼後継者インターンシップ」に取り組んでいる。全国から6人の応募があり、11月9日に行われたリモート面談で5人に選抜。上野焼窯元・渡窯など福智町内で11月28日から3日間、産地と希望者をマッチングする現地見学や相談会などが実施されました。



× 多肉植物

魅力の掛け合わせが生んだ新たな顧客

コロナ禍で「おうち時間」や癒やしを求める時間が増えたことをきっかけに、現在、10代から30代までの若い女性を中心として高い関心を集める多肉植物。新たなファン層の獲得のため、今年度から地元花店の協力を得て、多肉植物と上野焼の鉢を合わせて販売する取組を始めました。秋の窯開きで行った販売会では、121セットが完売。魅力と魅力の相乗効果による新規顧客の獲得に希望を示しました。



420年以上の歴史をもつ、福智町・上野地区の特産品である国指定伝統的工芸品「上野焼」。大量生産・大量消費、使い捨ての時代となった現在では、その伝統に警鐘が鳴らされています。町の誇りを未来へとつなぐ挑戦について、上野焼協同組合の高鶴享一理事長にお話を伺いました。

伝統と誇りを未来へ